

『New Treasure 研究会 大阪会場』実施レポート

日時	平成 29 年 8 月 27 日 (日) 14:00-15:05
場所	CIVI 研修センター 新大阪東
<p>【基調講演】 『2020 年の大学入試問題』から考える「日本の英語教育」のこれから 香里ヌヴェール学院 学院長 石川一郎先生</p> <p>◆CHECK-IN ※アイスブレイク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私が英語教育で重視していること」についてとなりの人と話し合う。 →立ち上がって、同じことを英語で違う 3 人に伝える (約 10 分)。</li> <li>・「日本語・英語で同じ内容で話せたか？」との問いでは同じ・違うの比率は約半分だった。 →自己紹介では英語のほうが適している。‘I + 動詞’なので内容がシャープになる。言語の違いは文化の違いであり、最初に I が来る英語では主張がはっきりする。 →「英語⇄日本語」(相互往復して学習する) というようには考えないほうがよい。</li> </ul> <p>◆「使える英語」とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしたら小さいころからやっている英語を「使える英語」にできるか。</li> <li>・4 技能はバラバラなものではないはずだが、周辺ビジネスもたくさん出ており、巷には英語教育があふれている。それぞれが使える英語を模索しているよう状況にある。</li> <li>・<b>Global Goals (国連)</b> を意識した教育は必須である。17 のコンテンツを方向付けしたいというのがある。やりがいのある仕事をしたい子供は多いが、何をやればいいのかのヒントを与えてくれるのが、ここに示された 17 のゴールの中にある。<b>Global Goals</b> は解決すべき課題が示されているのであって、仕事そのものが書いてあるのではない。<u>これらの課題に対して英語で話し合いができる力をつけるようにしたい。</u></li> <li>・「第 1 言語としてでない英語」を使うのは世界の 7 割。<u>多少聞き取りづらくても中身がある英語</u>が大事。</li> </ul> <p>◆本当に求められる英語とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かえつ有明の帰国生用入学試験では Essay writing / CT (Critical Thinking) / Group Discussion / Theory of Knowledge を重視したものだだった。</li> <li>・NT (『New Treasure』) Stage 4 の Critical Reading のあとで I think ... と自分の意見を言える力をつけさせたい。Critical Writing では相手の反論も見越して書くことになり、よいトレーニングになる。(「なぜ」のトレーニングを受けているアメリカ人などのように)。Essay writing, Critical Thinking→このあたりが fact や opinion を見極めたり培ったりする部分として重要。 →(ワーク) 『New Treasure』の CT の扱いについて、困った点などについて正直に隣の人と話し合いを。</li> <li>・critical を「批判的」と訳すのは本質と違う。日本的発想ではもともと「批判」という発想はないが、Critical Thinking を知らないと彼らの発想がわからなくなってしまう。</li> <li>・(さまざまな人種がいる) アメリカのように、ロジカルという共通の思想がない社会で多様な</li> </ul>	

人々と関わるには CT を一つの指標にせざるをえないという事情がある。

- ・課題に対して自分の考えと理由を述べるというのが CT の考えで、正解を言うというのではない。こうした彼らの感覚をわかっていたほうがよい。
- ・CEFR 文科省としては、B1 を狙っているようだが、本音は C1 (後半) までやらせたいと思っている。
- ・未来に向けて問題解決のためにどう英語を扱うか。

#### ◆タキソノミーと学力の 3 要素

- ・画像はブルーム (Bloom) のタキソノミー (Taxonomy) の 6 つの段階。日本の教育は①～④、特に③応用と④論理的思考をゴールとしている。アメリカは⑤批判的思考と⑥創造的思考までを養った上位数%を産出したいと考えている。
- ・たとえば、ザビエルについて教えるとき：知識を教えるのが日本の教育 (ザビエルについての授業①)。だが、覚えたことに価値があるわけではなく「それが使えるか？」が大切。→「もしあなたがザビエルだとしたら、布教のために何をしますか?...根拠とともに述べよ。」(ザビエルについての授業②) といった CT 的な設問 (「仮説」を立てて「具体的根拠」を示しながら論じる) がこれからは出てくるだろう。

#### ◆思考コード (首都圏模試センターの図解)

- ・評価の仕方についても ABC と分かれてくるだろう。評価 B は Summarize (知識を正しく再現する) で、今まで日本ではこのタイプが出題されてきていたが、これからは創造的思考力を問う C タイプの問題が出されるだろう。

#### ◆Language Arts

- ・イギリス人が英語をどういう観点で教えているかというところに思考を移したほうがよい。
- ・Language Arts のようなものをベースに。Show & Tell, 5W1H, Main Idea, Compare & Contrast, Fact & Opinion, Cause & Effect など。このあたりは『New Treasure Stage4』にきっちり書いてある。  
→これらを意識して授業できているか、話し合いタイム。
- ・訳読の限界は CT の考えがないこと。日英の違いがあるので、日⇄英の変換しても意味がなく、根本から見直す必要がある。しかし、アメリカの真似をすればよいわけではない。A (知識・理解) と B (応用・論理) の思考コードが日本は優れている部分もあるので、そこは大切にしつつ、彼らの土俵の上で、どう発言できるかが大切。日本人の良さは「人の話をちゃんと聞いている」ことである、など。

#### ◆DEBATE

- ・(ワーク) 席を移動して、組み合わせを変えて DEBATE を。  
お題：「日本人がアメリカに行って原爆について是と言われた時に、否といえるロジックを作ってください。」※英語でまとめたが、日本語でも可。
- ・こだわるところは問い。正解のない究極の問いをぶつけることで、思考停止にもなる場合もありながらも、それに答えていく方法を見つけていく。日本人は正解のみ教わってきているので、それに対する返し方を学ばせたい。ロジカルであることと説得力があることの 2 観点が大切。

◆まとめ：英語に関する切り口を変えて授業を見直す。そして、そういう入試問題を作る大学が人気になるだろう。

◆余談：・CT をかえつ有明で（久保先生と）指導していた時は、思考コードのところは日本語で教えていた。NT4の最初に書いてあることを日本語や、中学の総合学習で入れ込んでいくと、考え方のスキルや書き方を可視化できると思う。また、これをやっていくと、職場の仕事の進め方もロジカルになっていくのではないか。

◆質疑応答

Q：創造的思考 C の評価の仕方で効果的なものは？

A：ループリックはあったほうがよい。かえつ有明では生徒と先生と一緒に考える。1～3の段階を先に決めておいて先生が採点する。子供からのクレームも受け付ける。「狙いはこれ、それに対して自分の考え、ロジックはあるか」を考えさせるとよい。学校ごとの事情に合わせるしかない。

CTについてNT4の最初の部分を日本語で生徒にやらせるのもよい。書き方や考え方を可視化し、提案して学校全体で行えるとよい。

以上

『New Treasure 研究会 大阪会場』実施レポート

日時	平成 29 年 8 月 27 日 (日) 15:20-16:20
場所	CIVI 研修センター新大阪東
<p><b>【分科会 1-1】 【Stage1, 2】 実践的コミュニケーション力の育成を目指して</b>  皇學館中学校 小林誠治先生</p> <p><b>◆本校の紹介 (AR 動画)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三重県伊勢市にある男女共学の中高一貫で、生徒数約 1 4 0 名、1 学年 2 クラス。英数国で習熟度別少人数教育。</li> <li>・電子黒板機能付きプロジェクターを全普通教室及び理科室に配備。無線 LAN も完備。タブレットは教員用 1 人 1 台 (計 1 3 台)。生徒用 2 6 台。今後追加購入予定。</li> <li>・Skype による教室での国際交流 (オーストラリアなど) で、バーチャル英会話も行っている。</li> <li>・授業時以外でも ICT を活用し、総合学習や学指・道徳、委員会活動や文化祭での発表の活用、オープンスクールでの体験授業や受付用にも活用 (タブレットに、事前に Web サイトで受け付けた情報を入れておき、開場時にタブレットに表示させ、来訪者が確認するだけで受付完了に)。</li> </ul> <p><b>◆5月保護者懇談会にて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「20年後・30年後の未来はどんな世界?」という問いを投げかけた。</li> <li>→ますます国際化・多様化が進んでいく中で、広い視野を持ち、共通言語の英語を使って自己発信できる生徒を育てたい。『英語力・コミュニケーション能力・異文化理解』を涵養する。</li> </ul> <p><b>◆グローバル人材育成プログラム</b></p> <p>&lt;教室で&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネイティブ教員によるコミュニケーションの授業。オールイングリッシュなど。</li> <li>・アクティブラーニング (個人思考からペアワーク, グループディスカッションからプレゼンテーションへ)。</li> <li>・総合学習でも国際理解・文化理解を行っている (伊勢志摩サミットの会場見学・日本文化研究・国際理解プログラムなど)。</li> <li>・プレゼン力・ICT 利活用力などを, ルーブリックを使って評価。</li> <li>・読書をしてレビューを全員が発表。文化祭ではクラス代表によるブックレビューバトルも。プレゼンテーション力を磨くため, こちらもルーブリックで評価。</li> </ul> <p>&lt;教室を越えて&gt;</p> <p>ネイティブ教員とのカンバセーション (会話) クラス, 国内の English Camp (オールイングリッシュ, フリートーク)</p>	

<日本を越えて>

- ・オーストラリア姉妹校と Skype を通して交流（日本語を学んでいる生徒と）。半分は英語、半分は日本語で。隔年6月に、来校して交流授業。
- ・インターネットフレンドシップ校交流事業  
タイの学校と Skype で交流。英語だけでなく、タイの文化なども学んでいる。今後は現地に生徒引率も検討。
- ・バーチャル英会話教室（NTT ラーニングシステムズ）  
Web 会議システムを用いたオンライン英会話を実施。昨年度トライアル校の一枚に選定。全生徒を対象に今年度も継続実施。1人1台 TPC でヘッドセットを使用。数人のグループで仮想のルームを作って、そこに先生に入ってきてもらう形。1対4ぐらいで行っている。ただし、（ヘッドセットでの会話の都合上）教師には相手が何をしゃべっているのかわからないため、時々モニタリングは行っている。

<Skype 交流・オンライン英会話のねらい>

- ・運用力や英語学習のモチベーションの向上。
- ・多文化共生への意識を高める。
- ・英語を母語としない国の生徒と交流することで英語圏以外にも目を向け国際的な視野を広げる。

<Skype 交流・オンライン英会話の効果>

- ①英語力の向上：4技能5領域の向上
- ②英語学習への意識向上：コミュニケーションの実体験を積み重ねることで、積極的なコミュニケーションの素地を作る（ここが一番大きい）。
- ③自国文化・異文化交流

・海外短期語学研修（カナダ・バンクーバー）

カナダ人バディとの英語クラスや、ホームステイなど現地での生活体験を通して、英語の表現力向上と異文化理解を図る。

◆ 『New Treasure』 導入の経緯

- ・以前は検定教科書を使用  
⇒ 中高一貫教材の活用による中高接続連携や先取りの必要性
- ・H.23年度 中1・2年生がNT使用開始  
⇒ 以降学年進行でNT使用（～Stage4）
- ・以前は自作PPTを活用
- ・H.26年度よりNT Digital Textbook、NTデジタルフラッシュカードを活用  
H.28年度にStudy LinkZ NTデジタル教科書の活用を開始  
⇒ 教員用TPCにインストール（生徒用は現在活用無し）

## ◆授業の様子

- ・通常は、Grammar, Read, Read Plus Step1, Read Writing Training をメインで使っている。

New Treasure実践例  
～授業の様子 Lesson10-2～

- Five Basic Questions  
⇒挨拶や基本的なやりとり +α (その場で設定した質問)
- Keypoints (NTデジタル教科書)  
⇒自由英作文をペアでチェック  
⇒動画でGrammarチェック+ペアワーク
- New Wordsチェック (NTデジタル教科書)  
⇒全体練習後、ペアで発音・意味チェック
- 本文 (NTデジタル教科書)  
⇒全体・ペアリーディング  
⇒ペアで日本語チェック  
⇒Topic・Grammarチェック



- ・「+α (その場で設定した質問)」については、次のレッスンなどを意識した内容も (生徒には知らせずに) あえて取り混ぜ、実際に習うときに「この前 FBQ でやったあの表現と一緒にだね?」と確認させている。
- ・授業の内容に沿って英語を使わせるだけではなく、例えば、たまたま筆箱を忘れた生徒がいたら、「『鉛筆を貸して』などの内容を英語で言ってみて」と言うなど、その場の状況や日常の様々な場面をとらまえてどんどん英語を使わせるような形を取っている。
- ・基本的に授業ではペアワークの時間を多く取っている。  
→NT デジタル教科書のグラマー解説映像内などで、What is the best movie that you have seen recently? などの質問が出てきたら、ペアワークで扱い、必ず because をつけて根拠を示す活動を行っている。
- ・本文については、教科書音声を再生しつつ、適宜止めながらトピックやメイン・アイデアと関連する問いなどを生徒に投げかけている。また、1文1文訳したりはせず、ある程度まとまった意味が取れれば OK としている。その後ペアで音読。対話のものはペアで内容をロールプレイ。

## ◆Read Plus Step2 を使ったプレゼンテーション

New Treasure実践例  
～Read Plus Step2を活用したプレゼンテーション～

- 原稿 (+PPT) づくり
- 教員による英文 (+PPT) チェック  
⇒個別にアドバイス
- 個人練習・ペア練習
- TPCを使ってペア練習  
⇒TPCで録画し合ってチェック
- プレゼンテーション本番  
⇒発表後はフロアとのやりとり
- 振り返り  
⇒後日ビデオを見て振り返り、観点別自己評価



プレゼンテーション力+ICT利活用力の育成

- ・発表日までは、授業の中でも時間をとって、発表内容の暗唱と、発表のしかた（目線・姿勢など）をペアでチェックさせている。また、タブレットを使ったプレゼンもあるので、どのタイミングでタブレットを操作するかの練習や、PPT 資料として流用してくる画像の情報モラル（著作権）などの指導にも活かしている。

#### ◆NT 活用に際して／ファシリテーターとしての教員

New Treasure実践例  
～NT活用に際して／ファシリテーターとしての教員～

- ・プレゼンテーション、ペアワーク、グループワーク等によるコミュニケーション活動の設定  
⇒インプットからアウトプット活動のさらなる充実
- ・習熟度に応じたマテリアル選定  
⇒実態に応じた内容・難易度選定
- ・English Communication、Skype交流やオンライン英会話、他教科との連携  
⇒英語をコミュニケーションツールとして使用する、より実践的な場への効果的な接続

英語が好きな生徒も苦手な生徒も、  
すべての生徒たちのモチベーションアップへ！

My favorite singer

#### ◆質疑応答

Q オンライン英会話導入を考えている。「1対1」型と、「1対多」型とどちらがよいか？

A 目的によって異なる。グループで行う PBL (Project Based Learning) であれば、「1対多」でもよいが、会話をしているときに、どうしても他の生徒に頼ったりしてしまう生徒も見られる。したがって、個々人の会話スキル向上に焦点をあてて会話の練習をするのであれば、自分の力でなんとかする、という意味で「1対1」の方が個人的にはよいと考えている。言葉をしゃべれなくてもよいからジェスチャーでもよいので、何とかして伝えようという意識を育みたい。

理想としては、1対1だけでなく、目的に応じてさまざまな組み合わせパターンができるようなものが欲しい。

以上

『New Treasure 研究会 大阪会場』実施レポート

日時	平成 29 年 8 月 27 日 (日) 15:20-16:20
場所	CIVI 研修センター大阪東
<p><b>【分科会 1-2】 【Stage 3】 ICT を活用した英語 4 技能統合指導を目指す取り組み</b>                  岡山中学校・岡山高等学校 林秀俊先生</p> <p>◆<b>Watching a movie (in All English) (ワーク)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短い映画を見たあと、映画について隣の人と、1 分間で英語で話し合いを。</li> <li>・もう一度同じ映画を見せ、前回と変わっているところを見つけるタスクを出す。そのあと 1 分で話し合いを (日本語でも)。</li> <li>・種明かし movie を見せながら「見落とすものは簡単だ」。見ようとしなないものは目につかない (イギリス情報局制作の動画)。</li> <li>・<u>タスクを与えてそれをクリアしようとする</u>と、<u>頭が働き始める。</u></li> </ul> <p>◆<b>岡山中高での NT 使用歴</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2012 年『New Treasure』 (NT) を使用開始。以前はプログレスを採用。東大国立志望クラスで 1 年半で 1 冊使用。</li> </ul> <p>◆<b>ICT 使用歴</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もともとは訳読中心の授業だった。補助金が出ることになり、4 技能に力を入れるため、NT を始めた。2010 年、プロジェクタ・ラック (可動式) を自作。</li> <li>・デジ教材を手作りで制作：フラッシュカード (切り替えは自動・1 秒) と音読・速読用の教材 (Grammar 本文の提示と音読, 読む→書くへ) を作成。</li> <li>・2015 年各教室にプロジェクタ設置。生徒 iPad 導入 (日本語でも)。</li> <li>・スピーチコンテストを行う。中 3 では自分の意見も加えて発表させた。</li> </ul> <p>◆<b>4 技能を育成する授業へ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28~29 年度, 教育課程指定校となり「ICE ループリック」を研究。コミュ 1 の教科書で行っている授業実践を NT の授業でも行う。</li> <li>・家庭学習で日本語を介して本文理解をさせておき, 授業では訳はやらない (反転授業)。</li> <li>・ボキャブラリーマップ制作 →1 分間スピーチ→ディベートへの準備をさせる。生徒のスピーチは原稿を読みながらになりがちなこともある。</li> <li>・プレゼン：日本語のあとで英語でプレゼンさせる。原稿読み上げ型のプレゼンもあり。</li> <li>・訳や本文理解は家で終わらせ, 授業ではできるだけ生徒を前に立たせる形を心がけている。</li> </ul> <p>◆<b>『New Treasure Stage3』 授業ビデオ Read の授業の進行パターン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の iPad に動画 (パワポに音声を入れ込んでいるもの) を送り, 自宅で予習させる。英文を見て本文音声, 先生の解説の音声に合わせた英文構成の図示も入れている。</li> <li>・作成上で大変なのは, 音声を入れるところのみ。長期休暇の時などに集中してやっている。</li> </ul>	



- ・授業中はできるだけ話すことを心がけている。

Step①『速読英単語』の音読授業もあり。まず本文の読み（8分）→生徒がさまざまな音読活動を5分間で→さらにもう一度本文の読み。

Step②本文新出単語練習

Step③本文音読練習

Step④Read 授業の後半はなるべく活動させている。音声からメモを取り（ボキャブラリーマップ）、リテリング（10分）。ディクトグロス（再話活動）を立てて生徒同士で。BGM付き。2回目は原稿をなるべく見ずにリテリングさせる。

Step⑤話した内容を書き起こし、自分でサマリー（モデルサマリーは用意しておく）を作らせる。サマリー作成後にモデルサマリーを提示し、自己評価を行う。

#### ◆指導と評価の一体化

- ・エッセイライティングの成績が劇的に上昇した。まとまりをもって伝えたいことを文にして書くのはGRADE 5 (GTEC) の生徒が激増した。(GRADE 4は減り) リスニングも評価が上がった。

#### ◆ICEモデルを生徒と共有 (Ideas (考え), Connections (つながり), extensions (応用))

- ・理解できていれば Ideas はできている、と評価。
- ・評価解釈できていれば Connections, 1段階上の学習ができていれば（ディベートなどで相手を批評できればさらに上の評価を与える）ワークシートも作っている。文科省とも相談しながら。
- ・最初からある程度できている子がどのくらい writing 力が伸びているかは不明でこれが課題。

#### ◆まとめ

- ・12年関わって単語が多い教科書を訳せることで力がつくというところから始まり、4技能・ICTが入ってきて、という段階にいる。採用校の先生方と情報交換、授業見学などをお願いしたい。

Q：反転授業が気になっている。1回分のビデオの長さで最初の頃の苦勞は？

A：NT3だと1パート15分。スライドの大きさに1パラグラフが入りきらないという限界はある。導入時には中1・2までは普通にやっていて、中3からこの形式なので、最初はノートのとり方も入念にチェックしている。

Q：文法指導は授業の最初にされているのか？

A：NTのGrammarは反転授業の動画で日本語での文法事項の説明を行い、授業ではパターン・プラクティスを多用して定着を図っている。

以上

『New Treasure 研究会 大阪会場』実施レポート

日時	平成 29 年 8 月 27 日 (日) 16:30-17:30
場所	CIVI 研修センター新大阪東
<p><b>【分科会 2-1】 【Stage1, 2】 プロセスの体験から定着へ（『New Treasure』 Read を使って）</b>  帝塚山中学校高等学校 中林豊先生</p> <p>◆先生、どうやったら長文読めるようになりますか？（高1男子）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中1～3まで教えた生徒がこの質問をしてきた。自分がそれを3年間で理解させられなかったというショック。それをなくそうと今奮闘中。</li> <li>→<u>すべて「授業でやってあげすぎた」（生徒自身が自発的に気づきを得られる活動ではなかった）。</u></li> </ul> <p>◆2つの大事なこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①（言語がしみこむ）プロセスの体験させる（授業で）</li> <li>②「何を」「どれくらい」やれば定着するか共有（家庭で）</li> </ol> <p>◆①（言語がしみこむ）プロセスの体験させる（授業で）</p> <p>&lt;読む&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の段階では予習はナシ。間違ってきた読み方をしてほしくないのと、予習有無で生徒間で差がつくのを避けるため。</li> <li>・単語リストを事前に渡す→「読む」行為を妨げない。</li> <li>・WPM→急がなくてもよいが、遅く読んでも効果はないので、時間を意識させる。</li> <li>・問いを用意→本文中の「1文内の並べ替え、文同士の並べ替え、語句変形」など。</li> <li>・解説ナシ→<u>解説よりも問いの意図を理解させる</u>ため。そして、<u>それが最終的に読むときに必要になってくることを理解させる</u>。</li> </ul> <p>＃例えば「この問題は間接疑問を問うている」という意識が生徒にあるかどうか。そして、その形は何かを知っているか。論理構成だったら、「なぜその順序か」がわかるか。分詞形容詞なら、「文の動詞と勘違い」していないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こうしたことをルーティン（毎回同じような問い）にして、授業の中に組み込んでいく。</li> <li>→<u>ほとんどの生徒が理解できるようになるが、わかっていない生徒は焦るようになるので、勉強するようになる。</u></li> </ul> <p>&lt;音読&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しみこんでいく感覚を持たせる。</li> <li>・それぞれのトレーニングの意図を理解させる。</li> <li>・流れ：①リピート音読（音読シートに問いを埋め込んであるのでそれを質問したりする）→②起立音読→③日本語訳を見て CD 音声を聞く→④穴埋め音読シート→⑤シャドーイング→⑥デ</li> </ul>	

## イクテーション

- ・シャドーイングも英文見て→日本語見て→何も見ずに、というステップアップをさせる。そして、何が原因でできなかったかを必ず聞くようにしている。それで原因が明確になってくるので、そこを解決させる。

- ・なぜ CD についていけなかったか？

理解度が低い、聞こえていない、単にスピードが遅い（という原因である）。

- ・ディクテーション

機能語（that や in）の脱落が多い。ここでもなぜ書けなかったかを問うて、原因を明確化する。結局そこが理解できていないことの表れ。「聞こえない」はありえない。理解ができていないだけ。

∴まとめ

それぞれの活動をこなす中で、生徒自身が理解を深める構成に（教師の解説でなく）。

### ◆②「何を」「どれくらい」やれば定着するか共有（家庭で）

<素振り（=同じことを繰り返す）>

- ・音読やシャドーイングをしたら、回数表に○をつけていくなど、努力を可視化している。
- ・事前告知：「明日、ディクテーションするから」「明日、ライティングドリルします。」  
→少しでもやってもらうための工夫。
- ・「丸投げ」をあえて作る→生徒側がある程度できるようになり、教師がどう問うかがわかってきたら、生徒に責任を負わせる（=問いに答えてその原因を自ら判別させる）。「問い方」はいつもどおり。
- ・定期テストでは「問い方」に一貫性を持たせた。→男子は毎回同じ問い方をしても間違ふ。だから、いつも問っている箇所を問う。→そのおかげでどう勉強すればよいかが明確になる。
- ・定期テストの平均点の分析をするメリット→1回目と2回目で、後者の実施前に丸投げを増やしたら点が下がった。これは生徒自身がやっていない（「取り組んで自己分析→復習」という流れをやっていない）だけ、ということも分析できる。
- ・小テストは、他教科の負担もあるので、ディクテーションのみやらせるなど、効果性と負担のバランスを。

∴まとめ

「素振り」効果の実感→それをやっといさえすればよい（生徒にとって簡単・わかりやすい） & それをやっといれば効果がある，ということで、生徒が効果を実感し始めている。

- ・どの層を意識して授業？→自分では「ノウハウ」を見つけられないトップ下の 10～15 人の層。

◆アウトプット

・ Read を使ってアウトプットするところまでは行っていない。

・ ライティングのフィードバックの仕方。

→添削をやり始めると大変で生活が破綻するので、生徒の解答のよい例と悪い例をデータにして、授業冒頭で10分程度のフィードバックをやるようにした（データにするところだけが手間だが...）。どの例が何点なのか、というのを公開する。その方が（添削よりも）正確性は上がる。クラスメートが書いたものなので、食い入るように授業を聞く。

◆今後のビジョン（中学から高校に持ち上がるならこうしたい）

・ 読む量を増やす（今後は難易度も量も増えるから、このままやっても平均点は下がるだけ。だから何をやればよいのかわかるよね？ という問いかけで、生徒は今後何をすべきかわかる）。

・ 語彙力を増やす。

・ 予習できるように。

◆日本の学校での英語授業

・ 英作文をやり始めてわかったことだが、「日本語と英語の違いに視点を」ということを改めて意識することが重要。

◆質疑応答 なし。

以上

『New Treasure 研究会 大阪会場』実施レポート

日時	平成 29 年 8 月 27 日 (日) 16:30-17:30
場所	CIVI 研修センター大阪東
<p><b>【分科会 2-2】 【Stage 4, 5】 ICT を活用した授業実践 ～5 技能の習得に向けて～</b>  <b>大阪府立北野高等学校 若宮功先生</b></p> <p><b>◆はじめに</b></p> <p>「5 技能の習得に向けて」と銘打っているが、4 技能ではなく 5 技能であることに注意。Speaking が 2 つに分かれたからである。本校では高 1 で『New Treasure Stage4』(NT4)，高 2 で NT 5 を扱っている。TEDee Kobe という学生組織によって英語力がついたので、こういう教育を目指せるといいと思う。</p> <p><b>◆なぜ生徒は英語を勉強するのか・なぜ授業に言語活動を取り入れるか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入試のためだけでなく、第 2 外国としての英語の運用力もつけさせたい。これらは相反するものではないと思う。</li> <li>・よい指導者とは、本来の力を引き出し、未来のイメージ持たせられること。英語で考えると違ったチャンネルが開く経験も生徒に伝えたい。</li> <li>・北野高校の授業は 2 週間で 1 サイクル。会話や独り言もさせたり多読もさせている。英語圏の子供用のものなどを読ませて話し合いさせたりライティングでやったことを Reading の授業で応用する。</li> </ul> <p><b>◆授業実践</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャンクシートの活用 (ワードファイル)</li> <li>・語彙の説明後、本文音声、文法か内容のいずれかを先に。※指導の具体例  → (スライド例 (§3 There are two major types ～) では、トピックセンテンスの該当箇所については、2 通り考えられるので、正解は言わない。それぞれの文について、パラグラフの作りや文の働きを説明する。</li> <li>・チャンクリーディング (1 回目は英文、次に日本語を出して音声を聞く)。これで Read and Look up できる。難しくても 2 秒以内なら生徒はチャンクを覚えてリピートできる。  →チャンクシートの英語だけを見させ、ペアのどちらかが下まで読む。さまざまなパターンをさせる。3 人で組ませると盛り上がる。→追って読む、3 人目が復唱するなど。</li> <li>・quizlet (クイズレット、アプリありのフリーソフト) を使ってワードからインポートするとよい。生徒の自主学習用に使っている。次々読んでいくことができ、機能がたくさんあるので生徒が取り組みやすく、音を解して理解できるので生徒にも評判がよい。</li> <li>・作り方の説明 1 つにつき 20 分でできる。</li> <li>・フラッシュカードをパワーポイントで作る。ワードファイルと音声データを貼り付ける。</li> </ul> <p><b>◆Dialogue 活用例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「プレゼンは上手だが、質疑応答ではうまくできない」生徒が多いが、それはトレーニングをしてこなかったから。そこで「ダイアログ」で尋ね方・答え方のトレーニングを始めた。英文を見ながら英文が答えになるような疑問文を作らせることをすると関係詞の説明がすぐわかる</li> </ul>	

ようになるなどの効果が現れた。テキスト内容を言い換えさせることによって生徒の内言語の育成に役立ち、読解・リスニングの基礎が作られる。

- ・（実例）英文を見ながら音声を流す。スライドを見せながら空所を作って言わせる。→サマリーにつなげる。

#### ◆Task-based approach

- ・（活用例1：グラフィック・オーガイザー）本文論旨の展開 音声で中身を理解させる。オーバーラッピングなどをさせる。疑問文を作らせてパラグラフの構成を作れるように穴埋めをさせる。それをもとにサマリーさせる。

（活用例2：ノートの取り方）

- ・リスニングスキル育成（英文を聞いて質問への答えを作ることで論旨の展開・要点をつかむ）  
→生徒の内言語の育成がねらいで速読の基本スキルのひとつ。
- ・ノートのとり方についてのポイント3つ→単語（文でなく）、記号を使う（矢印など）、まとめる。

（最近のパターン例）

- ・単語・構文を communicative に理解させ、コミュニケーション・ストラテジーの育成をさせたい。
- ・音声を聞かせる→メモをとる→解答となる疑問文を作らせる。メモを元に自分で英文を起こして作らせる。
- ・（補足）先に難語の説明をしていますが、本文を聞いたあとでサマリーさせるとそこが抜けるのだが、また戻ると思い出すことができる。本文言い換えのみに終始しないよう注意。
- ・（動画の例）本文聞きながら生徒はメモ取り。2回目にノートを取ったら周りとは話し合わせる。  
→黒板で解説（どこをポイントにしてメモ取るかヒント与える）シートを埋めさせるようにする。

Q：文法指導はどうしているか？

A：コミュの時間とは別に文法をしている。2週間で3コマ。文法+英作文をさせる。

Q：自宅で行わせる反転学習での工夫は？

A：事前学習として単語リストを渡して埋めさせることをしている。復習についてもプリントを渡している。評価とも連動させるように注意しており、問題9～11あたり（定期考査の資料）で自分の意見を書かせるものを出題している。ディクトグロスについても（定期考査の資料）このような出題で、テキストそのものではなく関連ダイアログを聞かせてノートとり、リテリングもさせるやり方が有効。

Q：生徒の内言語について、授業で扱えない、見えない文化の部分についてもっと大事なものがあと思うが、教育の中でそれができなくて残念。どう思われるか。

A：発想や文化の違いは、外国に出て行かないとわからないものがあるので授業でカバーできないものはある。今後も模索していきたい。

以上